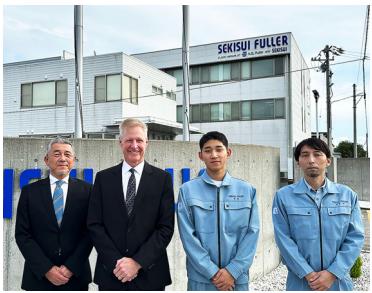
積水フーラーの４氏に聞く　成長の糧は従業員

世代の垣根越え次の20年へ

今年4月に設立20年を迎えた積水フーラーは積水化学工業と米H・Bフーラーの合弁会社として、両親会社の技術や開発拠点なども活用しながら持続的な成長を続けてきた。これまでの振り返りや今後目指す姿などについて、スコット・パーギャンディー社長や光田智裕SF　SAP PROJECT　ONE部長、染谷悠機能材技術部長、若手社員の水谷陽斗氏に話を聞いた。



左から光田部長、スコット社長、水谷氏、染谷技術部長

スコット・パーギャンディー 社長

光田智裕 部長　**染谷悠** 部長　**水谷陽斗** 氏

◇　◇

■…設立から20年が経ちました。

スコット氏　成長の糧は、従業員の皆さんだと考えている。当社のようなジョイントベンチャーはあまり長続きしないような傾向があったが、従業員の皆さんの協力で20周年を迎えられたことは大変喜ばしいことであり、今後の成長に向けた中間地点だとも捉えている。

トップダウンではなく、従業員の皆さんが自分たちで行動したことを誇りに思っている。行動規範をリニューアルし、携帯用のパンフレットも作成して常に意識できるようにしてくれた。ホームページも20周年と「接着の日」に合わせてリニューアルして公開。従業員の皆さんが一丸となって活動してくれたことが本当に嬉しい。皆さんのおかげでここまで成長することができた。

■…従業員の方々から見た積水フーラーは。

染谷氏　経営陣が従業員の声を聞くという文化は前からあったが、最近はより顕著に感じている。自分たちの要望を聞いて、実際に行動に移せるような体制を作ってくれている。年齢やキャリアに問わず、相手の持っている知識や経験をリスペクトする文化がある。

光田氏　考え方や意見の共有化ができるというのが当社の良い文化だと思う。各世代が同じ方向を向くことで、会社の成長に貢献できているのではないか。経験や、目標に向かう過程を同じ目線で共有できるような環境があることが当社の魅力だ。

■…若手に期待することは。

スコット氏　専門的な分野といった面でも、個人としても成長をしてほしい。世代を超えて技術や考えの継承や意見の共有ができるという点が当社の強みだと考えている。若手の方々にもどんどん意見やアイデアを出してもらうことが今後の成長に重要だ。

■…今後どのようなことに取り組んでいきますか。

水谷氏　現在は水系接着剤を製造する部署で働いているが、新しい知識をどんどん取り入れて自分と会社の成長につなげていきたい。ゆくゆくは学んだ知識を生かして技術分野に携わり、自分の開発した製品で会社を成長させたい。

染谷氏　研究開発（R&D）の立場として、技術の継承に力を入れていく。従来技術を発展させ、技術や知識の共有をしていくことが持続的な成長につながると考えている。親会社の取り組みも参考に、次世代につながる技術開発を進めていく。

光田氏　新しいことにチャレンジする雰囲気作りを行っていく。自分がこれまでやったことのないことに挑戦することが変革につながると思う。人によって異なる視点を共有、理解して対等な目で話し合える環境を作っていく。

■…成長に向けた抱負を伺います。

スコット氏　当社が長年培ってきた良い文化を継続していくことが次の20年、またその先への成長にもつながってくると考えている。従業員の皆さんには世代を超えて活躍してもらい、一緒になって成長に導いていくことがこの先も重要だ。

（聞き手＝小椋響稀）